（別紙様式）　　（Ａ３判横）

平成３０年度　学校自己評価システムシート（県立白岡高等学校）

目指す学校像	自主と奉仕の精神に満ち、社会に貢献する人間を育てる、地域から信頼される学校

重　点　目　標	1　確かな学力を育成するために、授業改善をはじめとする学力向上に関する取組を推進する。 2　学校・家庭・地域の絆を深め、開かれた学校づくりを推進する。 3　生徒一人一人の、自立する力を育む進路指導を推進する。 4　豊かな心と健やかな体を有する、明るく活力ある生徒を育成する。

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

学校自己評価								学校関係者評価
年度目標					年度評価（　月　日現在）			実施日　平成　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	・学校評価アンケートにおける項目「分かりやすい授業を行い、熱心に指導してる」の肯定的評価は比較的に満足度は概ね高いが、特に１，２年生に対する学習指導にさらなる改善が必要である。 ・生徒の学力実態に応じた指導や学習サポーターによる補習や授業支援は、欠点保有者の減少に成果をあげている。また、成績上位者支援のための進学補習は計画的に実施できている。さらに「学力向上プロジェクトチーム」は機能しているとは言えない。	・教員一人一人が授業改善に取り組み、生徒の学習意欲を高める工夫を行っているか。	①年間２回の授業公開・研究週間において、各教科ごとの研究授業・研究協議等を実施する。 ②教員が授業改善に関する研修会・研究会へ積極的に参加し、校内や教科会を通じ研修情報の共有を図るとともに実践する。	①学校評価アンケートにおける項目「分かりやすい授業を行い、熱心に指導してる」の肯定的評価を８０％以上とする。 ②協調学習をはじめとした授業改善に関する研修会・研究会への各教科からの参加し、授業実践する。				
		・生徒の学力に応じた学習環境を整え、基礎学力の定着と上位層の学力向上に取り組むとともに、生徒一人一人が希望する進路目標を達成させるための学力定着の取組を推進する。	①各教科・科目で適切かつ効果的な小テストや課題付与を実施する。 ②学力向上プロジェクトチームと連携し、生徒への進学補習等を実施する。 ③学習サポーターを授業や補習に活用し、特に数学の基礎学力を高める。 ④指名補習や学習会を実施する。 ⑤「全ての教室へ新聞を運動」に参加する。	①長期休業中の課題の提出率を１００％とする。 ②進学を目的とした補習等に参加する生徒を増加させる。 ③１年生の７割が数学学習到達度「中学生以上」とする。 ④各学期の欠点保有者を各学年２０名以下とする。 ⑤生活実態ｱﾝｹｰﾄにおける「新聞を毎日読むか」肯定的評価５０％以上とする。				
2	・地域の行事への積極的な参加や活発な奉仕活動によって、保護者や地域住民、白岡市との連携は深まっている。ホームページの更新１００回以上、TSメール配信は３０回以上行ったが、アンケート項目で「情報発信に対する評価」の肯定的評価は７０％であった。今後は内容の精選と充実に工夫を凝らすことが求められる。 ・学校説明会の工夫を行い、教育内容の変更などの情報伝達を確実に行い、さらに効果的な生徒募集活動の展開が課題である。 ・創立３０周年事業として始まった国際交流事業を、継続して実施する。	・教育課程、教育活動や部活動に関する情報発信の手段を工夫する。 ・学校の様子について、様々な方法を用いて情報の発信を行う。	①選択科目についての伝達などの情報発信を的確に行う。 ②ホームページの更新やメールの発信回数を増やすとともに、内容を精選し充実したものにし、積極的に学校の情報を発信する。 ③新聞や市の広報誌等にも情報を広く発信する。 ④高大接続を定着させる。 ⑤地域行事への参加を継続する。	①的確な情報提供に努め、入試志願倍率が１．１倍を上回る。 ②評価アンケートにおける項目「学校からの情報提供への満足度」の肯定的評価８５％以上とする。 ③新聞、広報誌への掲載回数を年間１５回以上行う。 ④近隣の大学との連携事業を推進し実施する。 ⑤地域行事への参加を継続する。				
		・学校説明会の実施方法を改善し続けるとともに、中学校教職員、生徒、保護者への情報提供を工夫し、本校教育の特長を周知徹底する。	①全職員による生徒募集研修会、中学校訪問を実施する。（年３回） ②年５回の学校説明会において部活動体験や入試対策講座を実施するとともに、本校生徒を活躍させる場面を多く作る。 ③地元からの志願者を増加させるために、地域中学校等への出前授業などの機会を増やす。	①入試志願倍率が１．１倍を上回る。 ②学校説明会の参加者を１０％増加させる。 ③地元からの志願者を１０％増加させる。				
		・ＰＴＡ後援会・白岡市内中学校や地域の方達の協力により、受け入れ派遣、交流事業を実施する。	①国際交流委員会を中心に、ホームステイ先の確保や交流事業の内容等を検討し、特色ある行事として継続して実施する。	①１０名以上の派遣希望者を得、国際交流事業を実施することができ、広い視野を持った人材育成に寄与できたか。				
3	・生徒や保護者の進路指導に対する評価は高く、就職においては内定率１００％を達成し、９４％の生徒が進路を決定して卒業している。 ・生徒には、年次における進路指導を行い、各自が希望している進路先の現状を十分に理解させ、自己の適性や能力も考慮した上で、意欲的な態度で、よりよい進路選択ができるよう指導することが課題である。	・生徒が自分の興味関心、適性及び能力を踏まえて的確な進路選択ができるよう指導を行う。	①各学年において行われる進路オリエンテーションや進路ガイダンス、分野別ガイダンス及び就職指導の内容を充実させる。 ②企業訪問や、入試説明会に積極的に参加し、有益な情報を生徒に提供する。 ③指定校枠の活用、新しい指定校、就職先を開拓する。	①就職内定率１００％を維持する。 ②生徒、保護者対象の学校評価アンケートにおける項目「進路結果についての満足度」で肯定的評価９０％以上を目指す。 ③重点指定校の決定率５０％以上、及び新しい指定校の獲得、新規の求人開拓を行う。				
		・より高い進路意識を持ち、チャレンジする精神を育成する。	①自己の進路に対する意識を向上させ、意欲的に取り組む姿勢を育成するとともに、支援する体制を整える。	①学校評価アンケートの項目「将来の希望（夢）を実現するために努力している」で肯定的評価７０％以上とする。				
4	・基本的生活習慣が守られ、元気の良い挨拶ができる生徒が多く、部活動、学校行事も活発に行われ、成果をあげている。一方で精神的に不安定で支援の必要な生徒の入学も増えている。 ・種々の教育活動を通して達成感を抱かせ、自主自律の精神を育成することに加え、昨年度は、教育相談委員会が発足し、スクールカウンセラーが中心となり相談を計画的に実施することができた。 ・保健施設部や事務室の適正な指導によって良好な学習環境が整備されているが、さらに校内環境の維持に努める必要がある。	・教職員の共通理解に基づく、一貫した指導の実践を通して、充実した学校生活を送れる環境づくりに、引き続き取り組む。	①生徒指導部会や職員研修を通して、生徒指導に関する共通理解を深め、いじめや問題行動等の早期発見、早期解決に努める。 ②部活動において生徒と関わる時間を増やし、技術力の向上、チーム力の向上を図るとともに、生徒の人間形成を主眼とした活動を推進する。	①いじめゼロ、生徒指導人数１０名以内とする。 ②県大会以上の大会に出場する部活動１１部以上、県入賞３部以上、県大会ベスト１６以上５部とする。				
		・教育相談体制をさらに機能させ、支援の必要な生徒の把握・情報の共有・支援に取り組む。	①各学年からの情報を全職員が共有し、効果的な教育相談を展開する。 ②共生社会育成拠点校として、支援の必要な生徒へのサポートを推進する。	①中途退学者を１０名以内にする。 ②高相研やカウンセリング、特別支援教育に関する研修会へ積極的に参加する。				
		・清掃指導を徹底し、学習環境作りに取り組む。 ・安全点検を定期的に実施し、安全な環境を維持する。	①毎日の清掃指導や、定期的な清掃用具の整備を実施する。 ②定期的な安全点検を実施するとともに、「快適ハイスクール事業」において校内外の環境整備に努める。	①校内公開行事等において、校内美化に関する項目に良い評価が出ているか。 ②夏季休業中の校内活動や部活動において、工夫した活動日程等で事業に協力する。				